



# 北村秀行の “チャーマス・ブレイン”

# “Char Mas. Brain”

連載 第122回

## ヒメダイとフエダイの仲間

今回は日本に生息するヒメダイ属8種のうち、前号で紹介できなかった3種類とフエダイ科のバケアカムツを紹介してもらおう！

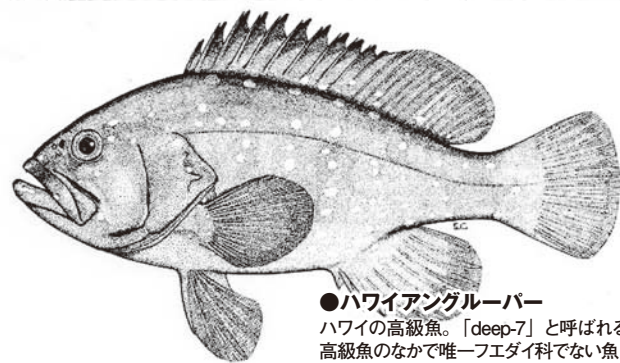
解説 ● 北村秀行



### ヒメダイ

学名: *Pristipomoides sieboldii*  
英名: Lavender jobfish  
太平洋側、九州西岸、琉球列島、朝鮮半島南岸、台湾、東沙諸島～インド、太平洋域、ハワイ諸島に分布

ハワイ諸島の沖釣りで「deep-7(ディーブセブン)」と呼ばれる高級魚7種がいる。そのうち6種がフエダイ科のハチジョウアカムツ、ハマダイ(オナガダイ)、オオヒメヒメダイ、シマチビキ、オオクチイシチビキ。残りの1種がハワイアンブルーパー(Hawaiian grouper)と呼ばれるマハタ属の魚だ。これらの魚も減少傾向で産卵期の禁漁、バックリミット(捕獲魚数制限)等を設けて、保護を

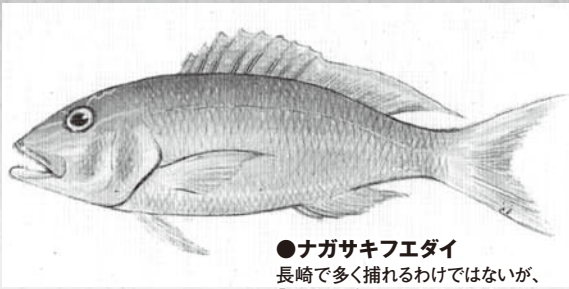


●ハワイアンブルーパー  
ハワイの高級魚。「deep-7」と呼ばれる高級魚のなかで唯一フエダイ科でない魚

している。  
九州でよく捕れる  
美味なナガサキフエダイ  
日本に生息するヒメダイ属8種のうち、残り3種はあまり馴染みのない魚だ。それらはヒメダイ、マチとして流通している。  
●ナガサキフエダイ(長崎笛鯛)  
学名: *Pristipomoides multiceps*  
英名: Goldbanded jobfish

九州北岸～琉球列島～インド～西太平洋、紅海に分布。成魚が生息するのは水深40～245mの岩礁域で、通常は100m以深に生息する。体色は黄色っぽく、吻部から眼の下方にかけて2～3本の青色小斑点列と黄色縦帯がある。側線有孔鱗数は47～52枚。バラヒメダイと同じ枚数でヒメダイ属の他種よりは少ない。バラヒメダイは吻部に斑紋がなく、体も赤みを帯びる。小魚や甲殻類、軟体動物などを捕食する肉食性。最大90cmに成長する大型種。寿命30年。

おもに九州、熱帯域の釣りや延縄等で漁獲される超高級魚だ。肉は白身で美味。食用となつている地域でも種の認識度は低く、関東で見かけることは非常に希。近代魚類分類学の父、田中茂穂博士が一般性の高い地方名に基づく標準和名を提唱。当初、ナガサキイシチビキ(*Pristipomoides sparus*)と登録されたが、ナガサキフエダイのシノニム(同



●ナガサキフエダイ  
長崎で多く捕れるわけではないが、「ナガサキ」という名前が付く

種異名とされ統合された。

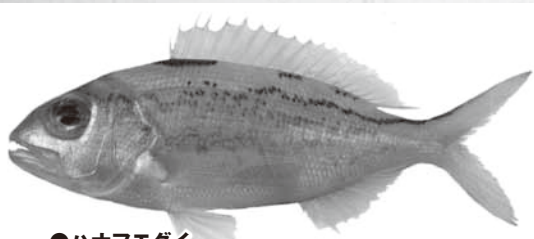
### ハナフエダイと バラヒメダイについて

●ハナフエダイ(花甲鯛)

学名: *Pristipomoides argyrogrammicus*

英名: Ornate jobfish

伊豆諸島、静岡県以南の太平洋側、琉球列島、南大東島、尖閣諸島、小笠原諸島～インド～中央太平洋に分布。ハワイ諸島には生息しない。深海性が強く、水深70～350mの岩礁域に生息。通常は水深100m以深に棲む。



●ハナフエダイ  
ヒメダイと区別されないで流通する

体高がやや高い。体色は全体的にピンクにちかい色合い。背部、尾鰭は黄色味がかかる。体側に青色の不連続の線があるが見えない個体もいる。側線有孔鱗数は58～66枚。小魚や甲殻類等を捕食する肉食性。最大40cm。花のような色合いが、名前の由来だ。  
●バラヒメダイ(雷童(雷童鯛))  
学名: *Pristipomoides typos*  
英名: Sharptooth jobfish  
沖縄島以南～台湾、西太平洋、アンダマン海、東インド～北部オーストラリア海域に分布。水深40～120mの岩礁域に



●バラヒメダイ  
「マチ」という名で流通している

生息する。体色は薄いピンクシルバーで、頭上部に茶色がかつた黄色の虫食い模様がある。側線有孔鱗数はナガサキフエダイと同じ47～52枚。ナガサキフエダイのように吻部に目立つ斑紋はなく、体色はピンクシルバーで区別できる。

肉食性で小魚や甲殻類、軟体動物などを捕食する。最大70cm、寿命11年。

### ハチジョウアカムツに 似るバケアカムツ！

気になる魚種がいる。「ア

カムツ」と名が付いている魚だ。そのなかのバケアカムツ属(*Randallichthys*)は1属1種だ。

### ●バケアカムツ(花赤陸)

学名: *Randallichthys filamentosus*

英名: Randall's snapper

伊豆諸島、琉球列島、小笠原諸島、ハワイ諸島、クック諸島、ニューカレドニア島、西～中央太平洋のように局所的な生息分布が知られる。深海性のフエダイで水深150～300mの岩礁帯周辺に生息する。体形は紡錘形。体色はオレンジ色。主上顎骨に鱗はない。胸鰭がハマダイなどと比べると短い。腹鰭の先端周辺が褐色。尾鰭が大きく尾鰭後縁が極細く黒く縁取られている。図鑑では最大50～60cmと記載されているが、80cmくらいまで成長するようだ。

ノドグロと呼ばれるアカムツを意識して和名を付けたのではない。ハチジョウアカムツによく似ているので付いた和名だ。

ハワイのビショップ博物館の海洋生物学者・John Randallの発見だ。



●バケアカムツ  
ハチジョウアカムツにそっくりだ。美味な魚だが、この名前では…

●Profile  
北村秀行 きたむらひでゆき  
1946年9月8日生まれ。  
“チャーマス”の愛称で親しまれ、この人なくして今の日本のソルトウォーターアーフィッシングの発展はないと言っても過言ではない。魚やタックル、そして自然など、釣りに関係するありとあらゆる物事に対する豊富な知識から導き出される卓越したフィッシング理論には定評がある。クラブビッグワズ代表。tailwalk スーパーバイザー